

あなたの手を、世界の誰かに。

2020年1月1日



セカンドハンド通信 NO.99

公益社団法人 セカンドハンド 本部事務局 TEL&FAX 087-861-9928
〒760-0055 香川県高松市觀光通1-1-18
E-mail:jimukyoku2hand@yahoo.co.jp http://2nd-hand.main.jp/
ブログ:https://koekihojinsecondhand.wordpress.com/
Facebookもしています！ [セカンドハンド Facebook] 検索



セカンドハンド設立 25周年記念事業 カンボジア人の招聘事業

10月18日～27日、セカンドハンドが支援する現地団体に所属するカンボジア人10名を香川県に招待し、学校への訪問やイベントを開催し、様々な人達と交流をしてもらいました。セカンドハンドに関わる方々や香川県内の皆さんにカンボジアのことを知ってもらうだけでなく、カンボジアの人達に香川県のこと、セカンドハンドのことを知ってもらう機会となりました。詳細はP4、P5、P6で紹介します！

25年間ありがとうございました

公益社団法人セカンドハンドは、本年で設立25周年を迎えました。

新田恭子氏が始めた小さな運動が、商品を提供してくださる方、様々なミッションを担うボランティア、お店で買い物をしてくださる方々、商店街や周辺の方々に支えられて、ここまで続けられたことに、心から感謝申し上げます。

四半世紀の中でボランティアも職員も理事会メンバーもどんどん顔触れが変わりました。

それでも、人々の善意を苦しんでいる人のために活かそうという精神は変わることはありません。

セカンドハンドは、日本のNGOとしては最も小さいもののひとつですが、大勢の人々が自分の時間や品物、お金を提供することによって、困っている人を助けてきた極めてユニークな団体のひとつです。

「ひとりひとりの力は小さくても、集まれば大きな力となる」—このモットーとともに、これから多くの方が善意を寄せただけるセカンドハンドでありたいと願っています。どうか、引き続きご支援ください。

セカンドハンド代表理事 三木誠

「セカンドハンド」は、ボランティアが主体となって運営する国際協力団体です。主な支援先はカンボジアで、学校建設や奨学金支援などのほか、自立・医療・孤児院支援を行っています。資金源は皆様のご寄付とチャリティーショップ(提供された品物を無報酬のボランティアスタッフが販売)。ひとりひとりの力は小さくても集まれば大きな力となる」をモットーに活動しています。世界の誰かのために、あなたの力を貸してください。

商品提供やご寄付など、支援してくださった皆様へのお礼とご報告は、このニュースレターにかえさせていただきます。

教育支援



2020年度学校建設支援校決定! オーロムチェイ小学校



現在約100名の児童が通う。
現在は木造・トタン屋根の3教室のみ。

カンボジア西部ポーサット州の州都より約95km離れた所に位置しているこの地域は、木々に囲まれた自然豊かな場所です。各家庭へは電気水道が通つておらず、生活用水は雨水を使用します。

私たちが訪問した日には、多くの地域住民が集まってくれており、初めて見るという外国人に少し距離を置かれながらも、少しずつ会話をすることができます。地域住民のほとんどが読み書き計算ができないそうですが、子ども達には確かな学力を身につけていい仕事について欲しいということ、そして新しい校舎をぜひつくってもらいたいという想いをお話しくださいました。

この学校の前身である村の識字教室は住民自らが建設。その識字教室の児童増加が理由で、2016年に公立学校として認可されました。校長先生は、弱冠23歳の男性教員。この他、教員免許を持たないボランティア教員3名がこの学校を支えています。教員不足のために校長先生も毎日授業を担当。さらに、午前と午後の2部制にすることで教室不足を解消しています。

校長先生の自宅は学校から60km離れた村にあり、毎日学校へ通勤することが困難なため、学校近くに自力でつくった小さな小屋で生活しながら子ども達の指導にあたっています。開校以来初めてでき

た6年生クラスの最高年齢は16歳。近くの中学校までは15kmあるそうですが、多くの児童が進学を希望していました。

木造校舎は一見立派に見えますが、その土台となる細い柱はシロアリによる被害が大きく、いつ崩壊してもおかしくありません。実際、数か月前には校門が崩壊し、新しく作り直したばかり。シロアリの被害は目に見えにくく、その大きさは測れませんが、訪問した際にも空洞音のする壁や柱が確認されました。

雨季には雨にも悩まされます。屋根はトタンを敷いていますが、穴が開き雨漏りは深刻です。雨によって腐敗した木は黒く変色し、一部が割け、素人目にも強度はとても弱く見えました。床は土がむき出しのままで使用されており、雨の日にはぬかるんだ状態で勉強しているのだろうと想像できます。砂埃が舞い上がる乾季や、スクールに襲われる雨季という大きな気候の変化に耐えながら、このような環境で授業を続けることは非常に困難です。

この地域には、他の支援団体からのサポートは一切ありません。教育支援がその成果を見せるのは何年も先のことになりますが、子どもたちの未来のために私たちはこの学校の校舎建設を支援します。皆さまのご支援よろしくお願い致します。



保護者や地域住民からお話を伺いました。

オーロムチェイ小学校建設支援にご協力いただけます方は、ウェブサイトからPaypalにてご寄付いただくか、同封の払込取扱票をご利用いただき郵便窓口にて振替口座までご送金ください。※教育支援にチェックを入れてください



カンボジア渡航報告第2弾



舟越和代さん(香川県立保健医療大学看護学科教授)



元奨学生が近年めでたく結婚!
そのお子さんと。

渡航では、セカンドハンドの支援を受けている、あるいは、過去に受けた人たちにもお会いきました。その方たちとの交流から感じたのは、カンボジアの方たちが未来に向けて活力ある生活をしていること、家族を大切にしていることでした。カンボジアの発展には子どもの教育が一番必要だと思います。しかし、近代化の中で貧富の差も出てきていて、いずれ、今までとは違った新たな教育格差も出てきそうです。でも親が子どもを思う気持ちには誰にもあると確信しました。若いお父さんお母さんが子ども達にしっかり愛情を注ぎながら生活できる環境づくりをすることで、将来のカンボジアを支える人が育っていくように思います。

堀美紀子さん(香川県立保健医療大学看護学科准教授、フォスターペアレント)



孤児院で里子と再会



セカンドハンドがこれまで支援した小学校や医療施設の視察に同行させていただきました。セカンドハンドが建設した施設は、多少の傷みはありましたが修理しながら大切に使われていました。また、新たに校舎の建設支援を検討している貧しい山村部の小学校にも訪れました。トタン屋根の木造の校舎で、築2年だそうですがシロアリに食われ今にも崩れそうで、あまりのひどさに驚きました。床は土のままで生徒は裸足です。とても衛生的とはいえず、正規の教員も1人で都市部の学校との格差を感じました。子どもたちの保護者は学校に行けなかつた人が多いですが、自分の子どもには教育を受けさせたいという強い熱意を感じました。このような学校こそ支援してあげたいと思いました。

堀先生には、保健衛生指導者育成プロジェクトの専門家としてもご協力いただきました!

保健衛生指導者育成プロジェクト終了(実施期間:2017年~2019年)



「家でも歯磨きをするようになった」とお母さん。

香川県立保健医療大学 堀美紀子先生

ホームランド孤児院で実施した、スタッフ育成事業が終了しました。事業評価として専門家と一緒に孤児院を訪問し、関わったスタッフのインタビューや子どもたちの家庭訪問を実施してきました。2017年の第1回目の手洗い研修終了後から、これまで指導していかなかった手洗いを、日々の日課として指導開始。手洗いを実施した日はカレンダーにシールを貼付し、子ども達にとっても意欲的に習慣化できる方法を取り入れてくれていました。スタッフの地道な指導の成果で、1年後にはほぼ100パーセントの子ども達が、スクールでの手洗いを実施するようになりました。この事業を実施できたおかげで、人々が健康で清潔に生活できるための大きな一歩となりました。スタッフからは、洗髪の方法や食事の栄養素についてなど、更に学びたいという要望が多く挙がっています。

この事業の実施において、専門的な立場でご協力頂いた香川県立保健医療大学、そして品物や支援金のご寄付を通してご協力頂きました皆さんへ改めて感謝申し上げます。

セカンドハンド設立25周年 カンボジア人の招聘事業 ~10日間まるっとご紹介!~



ボランティアとの交流

ボランティアの皆さんとはショップ見学やボランティア体験の中で交流しました。ボランティアの日々の活動を見てもらい、実際に体験してもらうことで、どのようにして支援金が生み出されるのかを実感してもらいました。

19日 ボランティア交流会



長年ボランティアをしていますが、支援先の団体や支援内容について、今回初めて理解できた部分がありました。カンボジアの皆さんとじっくり話をする機会が多かったです。

ボランティアUさん

子ども達は明るくて生き生きしていてとても嬉しく思いました。言葉も文化も違うけどみんなで集まってご飯を食べると国は壁はそんなに感じずみんな一緒になんだなって思いました。

ボランティア藤原さん

21日 ボランティア体験



感謝してくれているのが伝わって嬉しかったです。またぜひ日本に来てもらって交流したいと思いました。

ボランティア竹本さん

冬用の保育園の制服をラチャナ・ハンディクラフトで製作しているよ

23日 高松商業高校



様々な学校を訪問し、日本の生徒達と活動できたことが一番印象に残っています。教室内で携帯を使わない等のルールや教師と生徒の仲の良さ、また生徒達が真面目に授業に取り組む姿に感銘を受けました。カンボジアに帰ってから、スタッフや生徒達に伝えたいと思います。

KKEV代表 Phearak (ピアラック) さん



子ども達との交流

学校や施設にて子ども達と交流をすることができました。訪問先での活動はそれぞれ異なったため、日本の子ども達の様々な面を見るることができました。また、カンボジア文化の紹介も行い、カンボジアという国や異文化への興味・関心を高める機会となりました。

21日 セカンドハンド松縄店



22日 さぬきこどもの国



23日 高松保育園



子ども達の普段の様子を見学

24日 附属高松中学校



カンボジアについて地理で習ったが、まだまだ知らないことがたくさんある。世界の多様性を感じた。交流するためには相手のことを考えて、自分が伝えたいことを的確にわかりやすく伝えなければならないと学んだ。

高松商業高校2年生
(感想を抜粋)



支援者との交流

ホームステイや夕食での招待などをしていただき、温かいおもてなしを受けました。交流の日以外でも里親の方が会いに来てくださったりと、里子にとっては支援者の皆様の温かい愛情を改めて感じられる機会になりました。

19日 支援者のお店で夕食



19日 4人が2家庭にホームステイ



久松さん宅へ
スレイリンさんとマリンさん

若杉さん宅へ
プットさんとピーさん

私達夫婦にとっても、子どもたちにとっても、違う文化の人と交流する良い機会になりました。ホームステイ、また機会があれば、ぜひ受け入れたいと思っています。

フォスターペアレント若杉さん

初めてのホームステイの受け入れでしたので、2人を迎えるまでは不安と緊張で一杯でした。でも、とびきり可愛いマリンとスレイリンの笑顔に出会い、いっふんに緊張がほぐれました。夕食作りを手伝ってもらったり、栗林公園での散策や和舟体験、屋島の水族館に行きドルフィンショーも楽しみました。あっという間の2日間。少しでも多く楽しい時を過ごしてもらえて、ずっと心のどこかで覚えていてもらえたなら、幸いです。

フォスターペアレント久松さん

セカンドハンド・ユースが支援をしている奨学生2名を中心に交流を深めました。

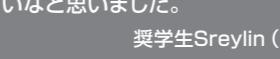
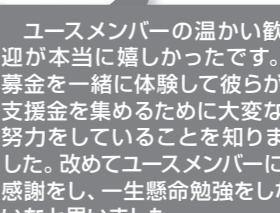
26日 募金活動



19日 香川県立保健医療大学文化祭



文化祭ではうどんと一緒に販売しました



ユースメンバーの温かい歓迎が本当に嬉しかったです。募金と一緒に体験して彼らが支援金を集めるために大変な努力をしていることを知りました。改めてユースメンバーに感謝をし、一生懸命勉強をしなければいけないなと思いました。

奨学生Sreylin (スレイリン) さん



お願いします!
募金箱

実際に、支援している学生と会うことで自分達が行っている活動に責任を感じると同時に、カンボジアの学生達にも、自分の学費がどのように集められているのか体験できる良い機会とすることが出来ました。お互いにいい刺激を与えることで、これからモティベーションに繋がると思います。学生達も、日本を満喫して頂けたようで嬉しいです。

今回招聘できたのは、2名だけでしたが、ユースは現在6名の学生を支援しています。このことを頭に置いて、これからも一生懸命活動していきたいと思います。

セカンドハンド・ユース

国際交流やフェアトレードに興味・関心のある一般の方との交流の場となりました。

26日 フェアトレード商品販売イベント



私たちの商品に興味を持ってくださって足を運んでくださった皆様に感謝したいです。商品を買うことで、私を含め、ここで働く女性達やその家族の暮らしを守っていただけます。ありがとうございました。

ラチャナ・ハンディクラフト代表 Syvanna (シヴァナ) さん

理事やボランティア、支援者の皆様のご協力で、香川の観光地も訪れることが出来ました。

観光



最初は緊張していたカンボジアの子ども達も、皆さまとの交流を通じて笑顔の時間が増えていき、積極的にコミュニケーションを取るようになってきました。ボランティアや支援者の皆さまにとっても、カンボジアやセカンドハンドの支援先の人々の新たな一面を知る機会となったようで、「楽しかった。またぜひ来て欲しい」との声を多くいただきました。そして、今回初めてセカンドハンドの活動やカンボジアの国について知ったという皆さまとの出会いのきっかけにもなりました。25周年設立記念事業へのご協力、ご参加いただきました皆さまに感謝を申し上げます。これからも応援をしてくださる皆さまとともにカンボジアの人々の笑顔のための活動を続けてまいります。

本事業にご協力いただいた皆様（順不同・敬称略）

遊び家ふるたか、おさかな広場寿司和食こども、香川大学教育学部附属高松中学校、香東中学校、さぬき子どもの国、高松商業高校、高松保育園、高松丸亀町商店街振興組合、高松三越、葡萄塾、堀美紀子、三豊園芸、WeBase高松
この他、たくさんの皆さまに様々な形でご協力いただきました。ありがとうございました。

26日 国際理解イベント「カンボジアってこんな国?」



言葉がわからないので、上手く相手に伝わるだろうか？とちょっと心配でしたが、いろいろと質問しているうちに打ち解けて楽しい時間は、あっという間に過ぎていきました。カンボジアの子ども達が一生懸命に頑張っているので、将来の夢が叶うと良いなあとと思いました。

ボランティア岡田さん

歓送迎会

初日と最終日にボランティアや支援者の皆様に集まつていただき歓送迎会を行いました。

18日 歓迎会



歓迎会では子ども達がとても緊張していて、私ももっと言葉の勉強をしておけば良かったと思いました。あまりご飯も食べずに緊張していた様子の子が、私が持参したりんごを食べて、ニコッと笑ってくれたのがとても嬉しかったです。ホームランドスタッフのモンターさんの子ども達への気配りや優しく見守る姿が印象的でした。普段会えない他のフォスター・ペアレントの方に会えてお話できたのも良かったです。

フォスター・ペアレントKさん

各地でひろがるセカンドハンドの輪

セカンドハンド・ユース

昨年秋は、学校受入れや25周年記念事業とイベントが続きました。学校受入れでは、紫雲中、三木中の皆さんと一緒に募金活動を行いました。参加した生徒たちは、初めは声かけすることを恥ずかしがっていましたが、最後には大きな声で元気よく活動してくれました。また募金活動に参加したいと言ってくれた生徒もいて嬉しかったです。

今年度の奨学金支援額は22万円です。皆様にご協力を頂き、現在までに約10万円を集めることができました。一人でも多くの学生を支援するために、1月からは街頭募金活動を毎月2回に増やします。これに加え、皆さんのが楽しめるようなイベントを計画中です！お楽しみに！



さぬき子どもの国でのイベント（25周年記念事業）

★一緒に募金活動してみませんか？
ご連絡お待ちしております。
secondhand_youth@yahoo.co.jp
《セカンドハンド・ユース 代表 矢木希》

SPECIAL THANKS



9/1～10/31までの2ヶ月間にご寄付などでご支援くださった方々です。その他にも様々な形でご協力くださった皆さまありがとうございました。

青井恵子、青野千恵子、伊賀憲子、池内保、岡崎城西高校英語部、岡田洋子、沖田竜太郎、柏原裕美、片山績、川崎多恵子、神崎利子、木村明仁子、酒井恵津子、佐野容子、下地初子、シュエリン公子、白川ふみ、末澤一誠、菅善明、高田笙子、高松東高校マンガ研究部、田中正利、玉木寿美子、俵惠美、塚田泰代、鳥かい歯科医院、中澤力、沼田章、のぞみ総合法律事務所、蓮井孝夫、林純子、林陽一、藤原和子、舟越和代、堀美紀子、堀具王、堀良子、升崎里美、松原志乃、マンスフィールド雪江、三浦美保、美濃吉広、宮林ミドリ、宮本明宜、森登代子、藪脇恭子、横田和典、横田千春、吉本房子、高松ロータリークラブ、若杉淳子

【その他】天勝丸亀店、永井敬子、和カフェぐう、サリーガーデン、四国フェアトレードネットワーク

<順不同・敬称略>



使用済み切手 書き損じハガキ 募集中!!

セカンドハンドでは、使用済み切手（消印が押されているもの）を回収しています。支援者の方が買い取ってくださり、カンボジア支援の資金となっています。今年は、約2万円となりました。学校や企業・団体で集めてくださっている方々もいらっしゃいます。使用済み切手1枚から提供OK！気軽に始められるカンボジア支援にご協力をお願いします。

また、書き損じハガキや、ご不要になったハガキ・切手類も回収しています。古いものでもOK！今年度ご提供いただいたハガキ・切手は、郵便書簡約800部になりました。セカンドハンド通信の発送に活用させていただきます。



提供された使用済み切手を整理してくださるボランティアも随時募集しています！切手の周囲5mmを残してハサミで切り取る作業です。空いた時間に1時間からOK！ご希望の場合は、希望日の3日前までに事務局までお知らせください。



